

ヘリコプターの 女性操縦士が誕生

中野一丁目の秋山紀子さん(二十歳)は、富士市の女性としては初めて女性操縦士となりました。免許取得のきっかけは、「何でも挑戦する若者に」という父紀夫さんの勧め。昨年の秋から何回か渡米し、現在まで自家用と事業用の二種類の免許を取りました。秋山さんは「空中停止するのが難しく最初は苦労しました。でも、自由に空を飛べる爽快さは何とも言えませんよ」とニコリ。



秋山紀子さん

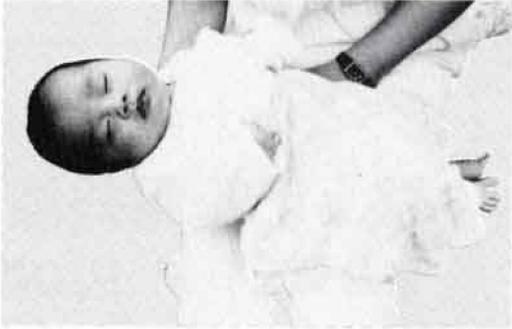


飯塚美奈子さん

「少年の主張」県大会で 優秀賞を受賞

八月十九日、静岡市の県総合社会福祉会館で昭和六十三年度「少年の主張」県大会が行われ、富士市代表田子浦中三年の飯塚美奈子さんは、見事優秀賞を受賞しました。話の内容から話し方まで問われるこの大会に、県内の応募点数は一万八千余点。明るくて、「人前で話すのが大好き」という飯塚さんは、「みんな私の先生」というテーマで堂々と語りました。夏休みも毎日練習した努力が実ったとあって「もう感激…」と喜びの涙。

富士市のギネス ほんま No.1 ベスト5



▽ここのしの名前の流行は…

女性の名前と言えば「…子」と言ったのは一昔前。時に応じて名前にも流行があります。

昭和62年生まれの女性の名前は、アユミ29人、メグミ26人、ユカ26人、サオリ25人、ミホ23人、となっています。

男性の名前は、ユウキ45人、ユウスケ41人、ヒロキ30人、ユウタ29人、ユウヤ26人の順で、ユウがつく名前の多いのが特徴です。

ちなみに昭和40年生まれの上位5人は、女性がマユミ63人、ヒロミ39人、ケイコ38人、ユミコ29人、ハルミ28人、男性がヒロユキ23人、カズヒロ20人、ヒロシ19人、アキラ・ケンジ・タカシ・タケシの各18人で、まったく違った名前になっています。

市立博物館の入館者が 二十万人に

昭和五十六年四月にオープンした市立博物館は、八月七日に見学入館者数二十万人を記録しました。二十万人目の入館者となったのは、瓜島の塩谷加代子さん。子供は雄平君(伝法小五年)の夏休み自由研究に付き添って入館したものです。



▷塩谷加代子さん親子(中央の二人)

八月十一日、記念式典が行われ、塩谷さんには、二十万人達成記念証と博物館特製の陶芸花器などの記念品が贈られました。



ハロー・ボンジュール 家族で国際交流

森島 澤田基司さん一家

家族でできる国際交流の一つに、外国人を自分の家に受け入れるホームステイがあります。今回は、ホームステイを積極的に受け入れている澤田基司さん一家におじゃましました。

六月にアメリカ人、七月にイスラエル人、八月にイタリア人と西ドイツ人夫婦というのが、最近澤田さんちを訪れた外国人。市内で毎月外国人を受け入れているというのは、おそらく澤田さん一家だけでしょう。

ホームステイを始めたのは74年。英会話グループで知り合った基司さんと佐美子さんが結婚し、さまざまな機関のホームステイ募集に応募したのが、きっかけです。

「たつ外国人でも一緒に生活すると、言葉や宗教・文化を乗り越えた人間的触れ合いができます。また、富士にいながら、外国の風にあたれますよ」と語ります。そういうわけで、子供の洋司君(富士南小四年)と奈美ちゃん(同小二年)も国際感覚は充分国際交流のモデル家族と言えるのではないのでしょうか。

▽左から佐美子さん、奈美ちゃん、洋司君、基司さん



基司さんはプラントエンジニア。海外出張も多く、二人は東南アジア各国やイタリアに長期滞在しました。その後、四年間ブラジルに移住したこともあります。こうした豊富な海外経験からか、日本人にありがちな過剰な外国人意識はまったくなく、積極的にみずからも楽しんでホームステイを行っています。

お二人はホームステイのだご味を「初めて会